



カブトガニ

生息地：干潟およびその周辺の海

クモやサソリに近い生き物です。近年生息地が失われつつあり、絶滅が心配されています。



タイコウチ

生息地：水田、湿原など

水面へ呼吸管を伸ばして息をします。鎌状の前脚で獲物を捕獲します。



ニッポンバラタナゴ

生息地：農業用水路、池など

オスはバラ色の美しい体色をしています。二枚貝に産卵する習性をもっています。



ヘイケボタル

生息地：水田、湿原など

ゲンジボタルより小さく、発光時間が短いボタルです。池や水田付近などの止水域で見られます。



クロツラヘラサギ

生息地：干潟およびその周辺

トキの仲間で、冬期に津屋崎干潟に飛来します。世界で2000羽程度しか生息していません。



マダイ

生息地：海洋

頑丈な顎と歯で、カニのかたい甲羅も噛み砕くことができます。大きなものは1mを超えることもあります。



カスミサンショウウオ

生息地：丘陵地、水田など

日本固有種で、1～5月に産卵します。丘陵地や水田地帯に生息しています。



ホンドギツネ

生息地：草原、森林など

かつては身近な生き物の一つでしたが、近年では原野や森林の開発などで数が減っています。



アカハライモリ

生息地：水田、池など

日本固有種の両生類です。産卵期になるとオスはメスの前で尾を振って求愛します。



ニホンアナグマ

生息地：山地、草原など

タヌキに似ていますがイタチの仲間です。巣穴を掘って家族で生活しています。



アカウミガメ

生息地：海洋

熱帯から温帯に広く分布しており、日本は西部太平洋における主要な産卵場となっています。頭部が他種のウミガメと比べ大きく頑丈で、貝やカニなどを主食としています。

ふくつに暮らす生き物たち

福津市には数多くの生き物が住んでいます。

しかし普段の生活の中で見掛けるのは、そのうちのほんの一部。

その存在を意識することは、あまり無いかもしれません。

たまには身近な場所にある山や川にちょっと目を向けてみませんか？

小さな生き物たちの存在と、その暮らしを支える自然の豊かさに気付くはずです。



津屋崎干潟

多くの動物や植物の生息地である津屋崎干潟は、「干潟見守り隊」などの活動によって守られています。同じ隊員でも関心の対象は、干潟自体だったり、そこに住む動物だったり植物だったりさまざまですが、干潟を守ろうとする気持ちは皆さん同じです。それは、福岡市など近隣の干潟が開発により失われていく中で、カブトガニなどの絶滅危惧種と同じように、津屋崎干潟そのものが貴重な存在となりつつあるのも理由の一つです。

津屋崎干潟にはハマボウという植物が生えています。絶滅危惧種として指定されている希少な植物です。しかし人の手で繁殖させるのはそう簡単ではないといいます。ではなぜ絶滅危惧種に指定されているのでしょうか。「絶滅危惧種と言われるものも環境さえあればきちんと育つ。人間がそれ以上の負荷をかけてきただけのこと」と干潟見守り隊の講師の土谷光憲さんは言います。「その場所にあるべきものがある」ということが今は難しい」と、隊員の皆さんは環境を守ることの難しさを身をもって感じています。

また、干潟にはハママツナという植物も生えています。ハマボウと同様に数の減少が危惧されていますが、清掃活動の成果を受けて津屋崎干潟では徐々に増えつつあります。秋頃にかけてきれいな赤色に紅葉するハママツナや、今が見頃の黄色い花を咲かせるハマボウを見に干潟へ出掛けてみませんか。「これらをきっかけに干潟に興味を持ってもらいたい」と干潟見守り隊の皆さんは言います。



▲ハマボウ



▲ハママツナ（右は紅葉時）



上西郷川

西郷川の支川である上西郷川は、水辺環境の保全や改良を目的に策定した「西郷川リバー基本計画」の一環として整備されました。

整備前の上西郷川はコンクリート護岸の川で生き物も少なく、子どもたちが遊べるような作りになっていなかったこともあって、川に対する地域のかたがたの関心は決して高くはありませんでした。環境意識の向上にはまず関心を持ってもらう必要があります。そこで整備に当たっては「西郷川を泳げる川にしてほしい」という子どもたちの声やワークショップであがった意見を反映させることや、「多自然川づくり」という考え方を取り入れることに重点が置かれました。

九州大学島谷研究室の協力のもと地元地域のかたがたと話し合いながら、「多様な生物の生息環境の再生」と「地域とのつながりの強い河川環境の創造」を基本方針として整備した結果、治水に対する安全性を高めながらも、生き物にとって住みやすく、地域のかたがたにとって親しみやすい自然環境を多く取り入れた川へと生まれ変わったのです。

川づくりの活動には、地元地域のかたがた、九州大学、市などが連携して立ち上げた「上西郷川日本一の郷川をめざす会」が中心となって取り組んでおり、川の維持管理や子どもを対象にした環境学習などを積極的に進めています。

環境が整備されたことで、ヤマトシマドジョウなどの希少な種も含めた多くの生き物が上西郷川に戻りつつあります。「子どもたちが川で楽しく遊び、生き物や環境に親しみをもち、ひいては川そのものを大切にできるようになってもらいたい」と同会の林博徳さん（九州大学）の言葉です。



▲「上西郷川日本一の郷川をめざす会」のシンボルのヤマトシマドジョウ



竹尾緑地

竹尾緑地を含む地域一帯には、もともと希少な生き物を含む多くの動植物が生息する里山が広がっていました。福岡県東地区の開発などにより里山の減少が進む中、地域の宝である豊かな自然を後世に残そうと、竹尾緑地の保全に向けての取り組みが始まりました。保全に当たっては有識者や地域住民、市が意見を出し合い、互いに協力してそれぞれができることを組み合わせながら里山の豊かな自然を多く残すことができました。

竹尾緑地の環境保全は「里山見守り隊」が支えています。隊員の中には里山見守り隊が発足する以前から自主的に竹尾緑地の保全に取り組んでいるかたも。里山に対する愛の深さがうかがえます。

「竹尾緑地の管理は自由にできるのがいい」と里山見守り隊の皆さんは言います。しかし決して個人が好き勝手にしているわけではありません。行政からの押し付けではなく、竹尾緑地に関わる人たちが自ら考えて自ら管理運営していくという考え方によるものです。

「竹尾緑地がモデルとなって環境リーダーを養成し、市内の各郷づくり地域の中で活躍してくれる人が増えること」「子どもたちに、竹尾緑地にいる多くの動物や植物に親しんでもらう観察会を学校と協力して開催すること」この二つが里山見守り隊の今後の目標です。



手光ビオトープ

「ビオトープ」とは「生き物のすみか」という意味です。市内の貴重な自然や生き物を守り、市民が自然と触れ合う場となるように、県・市・地元地域のかたがたの協力のもと、手光の休耕田を整備して一般に開放したのが手光ビオトープです。

生き物にとって住みやすい環境を再生したことで、本来そこに住んでいた多くの生き物たちが戻ってきつつあります。この中には環境省や県により絶滅危惧種に指定されている希少な生き物も含まれています。このような豊かな自然の中で、子どもたちが自分の手で虫や魚を捕まえて、自然と触れ合いながら環境の大切さを学ぶ場として活用されています。

手光ビオトープの立ち上げや管理、運営には、市民ボランティア団体の「どじょうクラブ」が深く関わっています。草刈りや害獣防除などビオトープの維持管理や、自然観察会、稲刈り体験などのイベントの補助が主な活動内容です。このような活動を通じて、環境保全活動に積極的に取り組もうとする人たちの輪は着実に広がっています。

どじょうクラブの新たなメンバーは随時募集しています。手光ビオトープに興味のあるかたは、県宗像・遠賀保健福祉環境事務所地域環境課（☎36・2475）まで、ぜひ問い合わせください。

生き物の暮らしを守る人たち

生き物たちが住む環境を守るために、多くの人たちが活動しています。

いろいろな採集方法



海草が茂っているところを網で探してみる。隙間に隠れている魚などが網に飛び込んでくることがあります。



石の下の隙間などに隠れているので、石を持ち上げてみる。持ち上げた石は元の場所に戻しましょう。



網で海底をさうように岸に向かって歩く。砂の中に隠れた魚が網に入ることがあります。

..... 1時間ほどで約20種類の生き物が見つかりました



イトマキヒトデ



ヨウジウオ



イソギンチャクの種類



メバルの種類



キンセンガニ



クロウシノシタ



ヒラタブンブク



ホンヤドカリ



アナハゼ



イソガニ



ヒメハゼ



クジメ



メジナ



スズエビモドキ



カレイの種類



イシガニ

海辺で生き物探し



貴重な生き物のほかにも、福津市には多くの生き物が住んでいます。しかし、実際には目にしたことのないかたもいらっしゃるのではないのでしょうか。そこで、津屋崎ヨットハーバー（渡区）のすぐ横に広がる浜辺で、海の生き物を探してみました。ここは浅瀬で潮が引くと歩きやすいので、初めてのかたにもお勧めです。ただし、生き物を必要以上に捕まえ過ぎないように注意しましょう。

こんなスタイルで行こう！

網があるとより楽しめます。柄が長く枠が半円状になった網が便利です。

ゴツゴツした岩場や尖った生き物から手袋で手を守ります。

そのほかに、飲み水やタオル、着替えの服、魚などを入れるバケツなどを持って行きましょう。



つばのある帽子をかぶり、熱中症や日焼けを防ぎます。

濡れてもよい格好で出掛けます。日焼けを避けるため、長袖の服を着ましょう。靴は古い運動靴やマリンシューズ。サンダルはすぐに脱げてしまうのでNGです。

地域の財産を引き継ぐために

▶豊かな自然に恵まれた福津市

皆さんは、福津市に住んでいることに幸せを感じませんか？わが子を海で遊ばせたいときは宮司浜、川で泳がせたいときは西郷川、クワガタ採りなら大峰山、魚釣りなら福岡海浜公園、潮干狩りなら津屋崎干潟など。いずれも家から10～20分圏内です。海あり、山あり、川あり、干潟あり…。私たちは、とても豊かでさまざまなタイプの自然に囲まれて、幸せな生活をしているのです。

野生の生き物たちも素晴らしい！市役所内にうみがめ課があることから想像できますが、年変動はあるものの市内の砂浜でアカウミガメが産卵します。津屋崎干潟には生きた化石カブトガニが生息し、またチクゼンハゼやトビハゼなどの絶滅危惧魚類が住んでいます。そして、世界で2000羽ほどしかいないクロツラヘラサギが毎年飛来します。西郷川には絶滅危惧種のヤマトシマドジョウ、そして、市内の農業用水路やため池にはメダカやツチフキ、ニッポンバラタナゴが分布しています。いずれも、全国的に姿を消しつつある希少な野生生物です。大都市の福岡市と北九州市に挟まれた立地なのに、これほど多くの種類の、しかも希少な野生生物にお目にかかるのは福津市ぐらいなのではないでしょうか。私の専門外の巻貝や水生昆虫にも希少な野生生物が存在するそうです。福津市の面積はわずか52.7km²、福岡市の6分の1、北九州市の9分の1です。これほど小さな町の中で、多様な分類群の希少な生き物たちの姿を見ることができると、大きな魅力の一つです。さまざまなタイプの自然があって、おのおのの自然が豊かで、それらが各生物に適したすみかを提供してくれるからこそ、この小さなまちで多種多様な生き物たちの姿を見ることができるのです。

▶希少生物の減少

ただ、残念なことに、幾つかの希少な野生生物は今、福津市から姿を消そうとしています。私が福津市内で初めて調査したのは約20年前。その頃は、投網1投で20尾くらいのニッポンバラタナゴが採集されたものですが、最近では10～20投やってもわずかしこ採集できません。あまりに数が少なく、郷育カレッジでの野生のニッポンバラタナゴを観察する講座を昨年中止しました。カブトガニも劇的に数を減らしているとか…。こういった希少な野生生物の減少は、その種の生息に適した自然が失われている証拠です。自然と生き物たちは、地域の財産ですので、ぜひ大切にしたいものです。

▶豊かな自然を守るために

そのために、皆さんにできること。まずは、福津市内の豊かな自然をたくさん体験すること、そして、そこに住む生き物たちの名前を知ることからスタートです。それらを通して、地域の自然と野生生物に関心を持つことが大切だと思います。次に、それらを周囲に伝えること。皆さんの自然と生き物を大切にしたい気持ちがたくさん集まって地域の声になったとき、初めて行政や学識者を動かすことができます。

▶地域の財産を子どもや孫たちの世代へ

もちろん、生物多様性地域戦略策定など、地域の声に関わらず進めることができる行政の仕事はあります。特に、多様なタイプの自然、多種多様な野生生物を抱える福津市には、見守るだけでいい自然、特定の維持管理を行うべき自然、手を加えて再生すべき自然が存在するはず。また、見守るだけでいい生き物、生息地を保全すべき生き物、保護区が必要な生き物など、存在しているはず。学識者の意見を参考にそれらの危機的レベルを整理しておかなければ、たくさんの地域の声の中から優先的に取り組むべき課題を選別できないかもしれません。声の大きさに負けて、今にも姿を消しそうな生き物に対策を講じず、後回しにしても問題ない課題が優先されるなどということがないように、きちんとした準備を望みます。地域の声と行政の準備が整ったとき、このまちの豊かな自然と生き物たちの保全が的確に進み、これらの地域の財産が子どもや孫たちに引き継がれていくものと確信します。

九州大学大学院
農学研究院
鬼倉徳雄 助教



生き物を観察するときの注意点

生き物や生き物が住む環境を守るために、また事故やトラブルを避けるために、次の点に注意して観察しましょう。

■生き物の住む環境を荒らさない

海や川、草原や森林など生き物が住んでいる環境は、自然が長い年月をかけて作り出したとても大切な場所です。野外に出て生き物を観察する時は、生き物が住んでいる環境を荒らさないようにしましょう。

■生き物を乱暴に扱わない

生き物を観察する時、生き物を網で捕まえたり、手に取ってみたりすることがあるかもしれません。生き物に触れる時は決して乱暴に扱わないようにしてください。乱暴に扱うと生き物が弱ったり、死んでしまったりします。

■生き物を必要以上に捕まえない

野外で生き物を観察していると、家でその生き物を飼いたくなることもあるかもしれません。また、昆虫採集など生き物を捕まえに行くこともあるかもしれません。生き物を捕まえて家で飼う場合は、必要以上に採らないよう心掛けましょう。また、生き物を家で飼うことができない場合は、持って帰らないようにしましょう。

■体調に注意

体調が悪かったり、熱っぽいと感じたりした時は、海や山、川など自然の中に出ることは絶対にやめましょう。また、暑い日は熱中症に注意し、しっかり休憩を取って水分を補給しましょう。

■持ち物や服装に注意しましょう

生き物観察に行くときは熱中症を防ぐため、つばのある帽子をかぶり、飲み物を持って行きましょう。また、日焼け防止にも気を配りましょう。足元ははだしやサンダルは避けましょう。

■危険な生物に注意

野外には毒を持っている危険な生き物もいます。危険な生き物には触らないように注意しましょう。

■天候や自然の状況に注意しましょう

出掛ける前には必ず天気予報をチェックして、警報が出たら外出は避けましょう。また、荒れている海や増水した河川、ひざよりも水深が深い場所、地盤が緩んだ崖など、危険な場所には絶対に近寄らないようにしましょう。野外には100%安全な場所はありません。しっかりと安全に配慮したうえで、生き物観察に出掛けるようにしましょう。

■立ち入り禁止の場所などには行かない

立ち入り禁止の場所に行くことはやめましょう。また、個人の土地に勝手に入ることもやめましょう。

■子どもたちだけで行かない

海や川、山などへは、必ず大人と一緒に出かけましょう。

こんな生き物に注意！



▲ニホンマムシ



▲オオスズメバチ